



# Cisco ISE CLI の概要

この章の内容は、次のとおりです。

- 「Cisco ISE CLI でのユーザ アカウント」 (P.1-1)
- 「Cisco ISE CLI でのコマンドモード」 (P.1-4)
- 「CLI 監査」 (P.1-12)

## Cisco ISE CLI でのユーザ アカウント

2 種類の Cisco ISE CLI ユーザ アカウントがあります。

- **admin** (管理者) : 他のユーザ アカウントの作成と管理を行い、Cisco ISE CLI 機能を設定する管理者ユーザ アカウント。
- **operator** (ユーザ) : Cisco ISE サーバに対する権限およびアクセスが制限されたユーザ アカウント。

Cisco ISE アプライアンスの電源を初めて投入すると、**セットアップ** ユーティリティを実行してアカウントを設定するようメッセージが表示されます。このセットアップ プロセス中に、**admin** アカウントが作成されます。初期設定情報を入力すると、アプライアンスは自動的にリブートし、**admin** アカウントで指定したユーザ名とパスワードの入力が求められます。また Cisco ISE CLI に最初にログインするときにも、この **admin** アカウントを使用する必要があります。

追加の **admin** および **operator** ユーザ アカウントを作成し、SSH を使用して Cisco ISE CLI にアクセスするには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを入力します (「[username](#)」 (P.A-151) を参照)。

どのモードであるかは、プロンプトを確認して判断できます。Cisco ISE ノードにログインすると、**admin** (EXEC) モードまたは **Operator** (ユーザ) モードになります。これには、認証に常にユーザ名とパスワードが必要とされます。サブモードに関係なく、**admin** アカウントのプロンプトの末尾にはシャープ記号 (#) が表示され、**Operator** アカウントのプロンプトの末尾には右かぎカッコ (>) が表示されます。

表 1-1 Cisco ISE CLI ユーザ アカウントのコマンド権限

コマンド	コマンド モード	ユーザ アカウント	
		Admin	Operator
<b>application</b>	EXEC	*	—
<b>backup</b>	EXEC	*	—
<b>backup-logs</b>	EXEC	*	—

表 1-1 Cisco ISE CLI ユーザ アカウントのコマンド権限 (続き)

コマンド	コマンド モード	ユーザ アカウント	
		Admin	Operator
cdp run	コンフィギュレーション、	*	—
clock	EXEC コンフィギュレーション	*	—
conn-limit	設定	*	—
configure terminal	EXEC	*	—
copy	EXEC	*	—
crypto	EXEC	*	—
debug	EXEC	*	—
delete	EXEC	*	—
dir	EXEC	*	—
end	設定	*	—
exit	EXEC	*	*
forceout	EXEC	*	—
halt	EXEC	*	—
hostname	設定	*	—
icmp	設定	*	—
interface	設定	*	—
ip default-gateway	設定	*	—
ip domain-name	設定	*	—
ip host	設定	*	—
ip name-server	設定	*	—
ip route	設定	*	—
kron	設定	*	—
logging	設定	*	—
max-ssh-sessions	設定	*	—
mkdir	EXEC	*	—
nslookup	EXEC	*	*
ntp	設定	*	—
ntp server	設定	*	—
パスワード	EXEC	*	—
password policy	設定	*	—
patch	EXEC	*	—
patch install	EXEC	*	—
patch remove	EXEC	*	—
pep (Inline Posture ノード)	EXEC	*	—
ping	EXEC	*	—
ping6	EXEC	*	*

表 1-1 Cisco ISE CLI ユーザ アカウントのコマンド権限 (続き)

コマンド	コマンド モード	ユーザ アカウント	
		Admin	Operator
reload	EXEC	*	—
rate-limit	設定	*	—
repository	設定	*	—
restore	EXEC	*	—
rmdir	EXEC	*	—
service	設定	*	—
show application	EXEC	*	—
show backup	EXEC	*	—
show cdp	EXEC	*	*
show clock	EXEC	*	*
show cpu	EXEC	*	*
show disks	EXEC	*	*
show icmp_status	EXEC	*	*
show interface	EXEC	*	*
show inventory	EXEC	*	*
show ip route	EXEC	*	—
show logging	EXEC	*	—
show logins	EXEC	*	*
show memory	EXEC	*	*
show ntp	EXEC	*	*
show pep	EXEC	*	*
show ports	EXEC	*	*
show process	EXEC	*	*
show repository	EXEC	*	—
show restore	EXEC	*	—
show running-config	EXEC	*	—
show startup-config	EXEC	*	—
show tech-support	EXEC	*	—
show terminal	EXEC	*	*
show timezone	EXEC	*	*
show timezones	EXEC	*	—
show udi	EXEC	*	*
show uptime	EXEC	*	*
show users	EXEC	*	—
show version	EXEC	*	*
snmp-server	設定	*	—
ssh	EXEC	*	*

表 1-1 Cisco ISE CLI ユーザ アカウントのコマンド権限 (続き)

コマンド	コマンド モード	ユーザ アカウント	
		Admin	Operator
tech	EXEC	*	
telnet	EXEC	*	*
terminal	EXEC	*	*
traceroute	EXEC	*	*
undebg	EXEC	*	—
username	設定	*	—
write	EXEC	*	—

## Cisco ISE CLI でのコマンド モード

Cisco ISE CLI は次のコマンド モードをサポートしています。

- EXEC : システム レベルの設定を実行し、操作ログを生成するために、EXEC モードでコマンドを使用します。「EXEC コマンド」(P.1-7) を参照してください。および表 1-7 を参照してください。
- コンフィギュレーション : コンフィギュレーション作業を Cisco ISE で実行し、操作ログを生成するには、コンフィギュレーション モードでコマンドを使用します。「コンフィギュレーション コマンド」(P.1-11) および表 1-6 を参照してください。

## コマンド モードの概要

ここでは、Cisco ISE のコマンド モードについて詳しく説明します。主な動作モードには、次のものがあります。

- 「EXEC モード」(P.1-4)
- 「コンフィギュレーション モード」(P.1-5)
- 「コンフィギュレーション サブモード」(P.1-6)

## EXEC モード

Cisco ISE CLI でセッションを開始する場合、EXEC モードから始めます。EXEC モードからは、コンフィギュレーション モードに入ることができます。show コマンドなどの EXEC コマンド (ワンタイム コマンド) のほとんどは、現在のコンフィギュレーション ステータスを表示します。EXEC モードのプロンプトは、デバイス名またはホスト名で構成され、その後にシャープ記号 (#) が付きます。たとえば、次のとおりです。

```
ise/admin# (EXEC mode)
```



(注)

このガイドの例では、ホスト名に *ise*、ユーザ アカウントに *admin* を使用します。

プロンプトを調べて、EXEC モードまたはコンフィギュレーション モードになっていることを常に確認できます。

- EXEC モードでは、Cisco ISE サーバのホスト名とユーザ名の後に、シャープ記号 (#) が付きます。

次に例を示します。

```
ise/admin#
```

- コンフィギュレーション モードでは、Cisco ISE サーバのホスト名とユーザ名の後に「config」というキーワードとシャープ記号 (#) が表示されます。

次に例を示します。

```
ise/admin# config
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

UNIX を使い慣れている場合は、EXEC モードを root アクセスのように考えることができます。Windows NT の管理者レベルおよび NetWare のスーパーバイザともよく似ています。EXEC モードでは、コンフィギュレーション コマンドの実行を含め、Cisco ISE サーバ内のすべてに対するアクセスが許可されます。ただし、コンフィギュレーション コマンドは直接入力できません。Cisco ISE サーバの実際のコンフィギュレーションを変更する前に、**configure** または **configure terminal (conf t)** コマンドを入力して、コンフィギュレーション モードに入る必要があります。このコマンドは、EXEC モードだけで入力してください。

次に例を示します。

```
ise/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise(config)# (configuration mode)
```

コンフィギュレーション モードには数種類のサブモードがあり、それぞれに固有のプロンプトがあります。これらのサブモードに入るには、まず **configure terminal** コマンドを入力して、コンフィギュレーション モードに入る必要があります。

コンフィギュレーション モードを終了するには、**end** コマンド、**exit** コマンド、または **Ctrl+z** コマンドを入力します。EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを入力します。コンフィギュレーション モードと EXEC モードの両方を終了するには、次の一連のコマンドを入力します。

```
ise/admin(config)# exit
ise/admin# exit
```

EXEC モードのコマンドの一覧を表示するには、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin# ?
```

## コンフィギュレーション モード

既存のコンフィギュレーションに変更を加えるには、コンフィギュレーション モードを使用します。コンフィギュレーションを保存すると、これらのコマンドは、次のいずれかのコマンドを実行した場合に限り、Cisco ISE サーバのリブート後もそのまま有効です。

- copy running-config startup-config**
- write memory**

コンフィギュレーション モードを開始するには、EXEC モードで **configure** または **configure terminal (conf t)** コマンドを実行します。コンフィギュレーション モードの状態にある場合、Cisco ISE は、コマンドをコンフィギュレーション コマンドとして処理します。

次に例を示します。

```
ise/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL-Z.
ise/admin(config)# (configuration mode)
```

このレベルから、Cisco ISE コンフィギュレーションに直接コマンドを入力できます。このモードのコマンドの一覧を表示するには、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin(config)# ?
```

コンフィギュレーション モードには数種類のコンフィギュレーション サブモードがあります。各サブモードに入ると、プロンプト階層のさらに深いレベルで操作できます。**exit** と入力すると、Cisco ISE はユーザのレベルを 1 段階戻し、前のレベルに戻します。もう一度 **exit** と入力すると、Cisco ISE はユーザを EXEC レベルに戻します。



(注) コンフィギュレーション モードでは、**end** または **exit** コマンドの代わりに、Ctrl+Z キーを使用できません。

## コンフィギュレーション サブモード

コンフィギュレーション サブモードでは、特定のコンフィギュレーションに対してコマンドを入力できます。次に例を示します。

```
ise/admin# configure terminal
ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ise/admin(config-GigabitEthernet)#
```

このモードのコマンドの一覧を表示するには、疑問符 (?) を入力します。

```
ise/admin(config-GigabitEthernet)# ?
```

このプロンプトを終了してコンフィギュレーション プロンプトに戻るには、**exit** コマンドまたは **end** コマンドを使用します。

表 1-2 に、インターフェイス GigabitEthernet 0 コンフィギュレーション サブモードのコマンドをリストします。この他に、**kron**、**repository**、および **password policy** の各コマンドに固有のサブモードなどのコンフィギュレーション サブモードがあります。

表 1-2 インターフェイス GigabitEthernet 0 コンフィギュレーション サブモードのコマンドオプション

コマンド	コメント
<pre>ise/admin(config)# interface GigabitEthernet 0 ise/admin(config-GigabitEthernet)# ? Configure ethernet interface:   do      EXEC command   end     Exit from configure mode   exit    Exit from this submode   ip      Configure IP features   ipv6    Configure IPv6 features   no      Negate a command or set its defaults   shutdown Shutdown the interface ise/admin(config-GigabitEthernet)#</pre>	<p>インターフェイスの設定のためのコマンドを入力します。この例では、<b>interface GigabitEthernet</b> コマンドを使用します。</p> <p><b>?</b>を入力して、と入力します。この例では、使用可能な <b>interface GigabitEthernet</b> コンフィギュレーション サブモード コマンドを示しています。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip ? address Configure IP address ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip</pre>	<p>インターフェイスの設定のためのコマンドを入力します。この例では、<b>ip</b> コマンドを使用します。</p> <p><b>?</b>を入力して、と入力します。この例では、使用可能な <b>ip</b> コンフィギュレーション サブモード コマンドを示しています。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address ? &lt;A.B.C.D&gt; IPv4 address ise/admin(config-GigabitEthernet) ip address</pre>	<p>インターフェイスの設定のためのコマンドを入力します。この例では、<b>ip address</b> コマンドを使用します。</p> <p><b>?</b>を入力して、と入力します。この例では、IPv4 アドレスを入力する必要があります。</p> <p>復帰 <b>&lt;cr&gt;</b> は表示されないため、追加の引数を入力してコマンドを完成させる必要があります。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 172.16.0.1 ? &lt;A.B.C.D&gt; Network mask ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 172.16.0.1</pre>	<p>使用するキーワードまたは引数を入力します。この例では、IP アドレスとして <b>172.16.0.1</b> を使用しています。</p> <p><b>?</b>を入力して、と入力します。この例では、ネットワーク マスクを入力する必要があります。</p> <p>復帰 <b>&lt;cr&gt;</b> は表示されないため、追加の引数を入力してコマンドを完成させる必要があります。</p>
<pre>ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 172.16.0.1 255.255.255.224 ? &lt;cr&gt; Carriage Return ise/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 172.16.0.1 255.255.255.224</pre>	<p>ネットワーク マスクを入力します。この例では、IP アドレスとして <b>255.255.255.224</b> を使用しています。</p> <p><b>?</b>を入力して、と入力します。この例では、Enter キーを押します。</p> <p>復帰 <b>&lt;cr&gt;</b> が表示されるため、Enter キーを押してコマンドを完成させます。</p>

## EXEC コマンド

EXEC コマンドは、システム レベルのプライマリ コンフィギュレーション コマンドです。

- 表 1-3 では、EXEC コマンドについて説明します。

- 表 1-4 に、EXEC モードの **show** コマンドを示します

EXEC コマンド モードおよびコンフィギュレーション コマンド モードの詳細については、「[CLI コマンドの使用法](#)」(P.2-5) を参照してください。

表 1-3 EXEC コマンド

コマンド	説明
<b>application configure</b>	特定のアプリケーションを設定します。
<b>application install</b>	特定のアプリケーションバンドルをインストールします。
<b>application remove</b>	特定のアプリケーションを削除します。
<b>application reset-config</b>	Cisco ISE コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットします。
<b>application reset-passwd</b>	アプリケーション内の特定のユーザ (admin) のアプリケーションパスワードをリセットします。
<b>application start</b>	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<b>application stop</b>	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<b>application upgrade</b>	特定のアプリケーションバンドルをアップグレードします。
<b>backup</b>	バックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<b>backup-logs</b>	Cisco ISE サーバに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
<b>clock</b>	Cisco ISE サーバのシステムクロックを設定します。
<b>configure</b>	コンフィギュレーションモードを開始します。
<b>copy</b>	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
<b>crypto key</b>	暗号キー処理を実行します。
<b>debug</b>	実行された各種コマンドの任意のエラーまたはイベントを表示します。バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理デバッグ情報などの表示があります。
<b>delete</b>	Cisco ISE サーバ上のファイルを削除します。
<b>dir</b>	Cisco ISE サーバ上のファイルを一覧表示します。
<b>exit</b>	リモートシステムとの暗号化されたセッションを切断します。現在のコマンドモードから以前のコマンドモードに戻ります。
<b>forceout</b>	特定の Cisco ISE サーバシステムユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
<b>halt</b>	Cisco ISE サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
<b>help</b>	ヘルプユーティリティの説明と Cisco ISE サーバでの使用方法を表示します。
<b>mkdir</b>	新しいディレクトリを作成します。
<b>nslookup</b>	リモートシステムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
<b>password</b>	CLI パスワードを更新します。
<b>patch</b>	システムまたはアプリケーションのパッチをインストールします。
<b>pep</b>	Inline Posture ノードを設定します。
<b>ping</b>	リモートシステムへの IPv4 ネットワーク接続を判別します。



表 1-3 EXEC コマンド (続き)

コマンド	説明
ping6	リモート システムへの IPv6 ネットワーク 接続を判別します。
reload	Cisco ISE サーバを再起動します。
restore	前回のバックアップを復元します。
rmdir	既存のディレクトリを削除します。
show	Cisco ISE サーバに関する情報を提供します。
ssh	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
tech	Cisco Technical Assistance Center (TAC) コマンドを一覧表示します。
telnet	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
terminal length	端末回線のパラメータを設定します。
terminal session-timeout	すべてのターミナルセッションに対して、無活動タイムアウトを設定します。
terminal session-welcome	すべてのターミナルセッションで表示される初期メッセージをシステムに設定します。
terminal terminal-type	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
traceroute	リモート IP アドレスのルートをトレースします。
undebug	実行された各種コマンドに対する <b>debug</b> コマンドのエラーまたはイベントの出力をディセーブルにします。たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理デバッグ情報の出力をディセーブルにします。
write	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワーク コンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップコンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

## show コマンド

**show** コマンドは、Cisco ISE 設定の表示に使用されます。

表 1-4 のコマンドを使用する場合は、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

表 1-4 コマンドの表示

コマンド	説明
<b>show application</b> (キーワードが必要)	インストールされている Cisco ISE アプリケーションに関する情報を表示します。たとえば、インストールされている Cisco ISE アプリケーションのステータス情報やバージョン情報です。
<b>show backup</b> (キーワードが必要)	Cisco ISE バックアップに関する情報を表示します。
<b>show banner</b>	ログイン バナーを表示します。
<b>show cdp</b> (キーワードが必要)	イネーブルな Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。

表 1-4 コマンドの表示 (続き)

コマンド	説明
<b>show clock</b>	システム時計の曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
<b>show cpu</b>	CPU 情報を表示します。
<b>show crypto</b>	暗号情報を表示します。
<b>show disks</b>	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
<b>show icmp-status</b>	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー応答コンフィギュレーション情報を表示します。
<b>show interface</b>	Cisco ISE サーバで設定されているすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
<b>show inventory</b>	ハードウェア インベントリについての情報 (Cisco ISE アプライアンスモデルやシリアル番号など) を表示します。
<b>show ip route</b>	Cisco ISE サーバの IP ルーティング テーブル情報を表示します。
<b>show logging</b> (キーワードが必要)	Cisco ISE サーバ ログギング情報を表示します。
<b>show logins</b> (キーワードが必要)	Cisco ISE サーバのログイン履歴を表示します。
<b>show memory</b>	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
<b>show ntp</b>	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのステータスを表示します。
<b>show pep</b>	Inline Posture ノードの情報を表示します。
<b>show ports</b>	アクティブ ポートでリスンしているすべてのプロセスを表示します。
<b>show process</b>	Cisco ISE サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
<b>show repository</b> (キーワードが必要)	特定のリポジトリのファイルの内容を表示します。
<b>show restore</b> (キーワードが必要)	Cisco ISE の復元履歴を表示します。
<b>show running-config</b>	Cisco ISE の現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
<b>show startup-config</b>	Cisco ISE のスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
<b>show tech-support</b>	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
<b>show terminal</b>	現在の端末回線の端末コンフィギュレーション パラメータの設定に関する情報を表示します。
<b>show timezone</b>	Cisco ISE の現在の時間帯を表示します。
<b>show timezones</b>	Cisco ISE で使用可能なすべての時間帯を表示します。
<b>show udi</b>	Cisco ISE の Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示します。
<b>show uptime</b>	ログインしているシステムが起動してからの稼働時間を表示します。
<b>show users</b>	システム ユーザの情報を表示します。
<b>show version</b>	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェア、およびデバイス情報を表示します。

## コンフィギュレーション コマンド

コンフィギュレーション コマンドは Cisco ISE の設定に使用されます。コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードで **configure** コマンドを実行します。一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コンフィギュレーションを完了するために、該当するコンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーション モードとサブモードのコマンドの詳細については、「[CLI コマンドの使用方法](#)」(P.2-5) を参照してください。

表 1-5 コンフィギュレーション コマンド

コマンド	説明
<b>cdp holdtime</b>	受信デバイスがパケットを廃棄する前に Cisco ISE サーバから Cisco Discovery Protocol (CDP) パケットを保持する時間を指定します。
<b>cdp run</b>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
<b>cdp timer</b>	Cisco ISE サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。
<b>clock timezone</b>	表示のためのタイムゾーンを設定します。
<b>conn-limit</b>	送信元 IP からの TCP 接続制限を設定します。
<b>do</b>	コンフィギュレーション モードまたはいずれかのコンフィギュレーション サブモードで EXEC レベル コマンドを実行します。 <b>(注)</b> 開始時に、 <b>do</b> コマンドは EXEC コマンドより優先されます。
<b>end</b>	EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>hostname</b>	システムのホスト名を設定します。
<b>icmp echo</b>	ICMP エコー要求を設定します。
<b>interface</b>	インターフェイス タイプを設定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>ipv6 address autoconfig</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードの IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
<b>ipv6 address dhcp</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードの IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
<b>ip address</b>	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。 <b>(注)</b> これは、インターフェイス コンフィギュレーション コマンドです。
<b>ip default-gateway</b>	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定します。
<b>ip domain-name</b>	Cisco ISE サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。
<b>ip host</b>	IP アドレス マッピングにホストのエイリアスと FQDN 文字列を設定します。
<b>ip name-server</b>	DNS クエリー時に使用するドメイン ネーム システム (DNS) サーバを設定します。
<b>ip route</b>	IP アドレスの IProute を設定します。

表 1-5 コンフィギュレーション コマンド (続き)

コマンド	説明
<b>kron occurrence</b>	1 つ以上のコマンド スケジューラ コマンドを、特定の日時、または繰り返す時刻に実行されるようにスケジューリングします。
<b>kron policy-list</b>	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
<b>logging loglevel</b>	<b>logging</b> コマンドのログ レベルを設定します。
<b>max-ssh-sessions</b>	同時 SSH セッションの数を設定します。
<b>no</b>	コマンドに関連付けられた機能をディセーブルにするか削除します。
<b>ntp</b>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
<b>ntp authenticate</b>	すべての時刻源の認証をイネーブルにします。
<b>ntp authentication-key</b>	信頼できる時刻源に Message Digest 5 (MD5) タイプの認証キーを追加します。
<b>ntp server</b>	使用する NTP サーバを指定します。
<b>ntp trusted-key</b>	信頼できる時刻源にキー番号を指定します。
<b>password-policy</b>	パスワード ポリシーをイネーブルにして設定します。
<b>rate-limit</b>	送信元 IP からの TCP/UDP/ICMP パケットのレート制限を設定します。
<b>repository</b>	リポジトリ サブモードに入ります。
<b>service</b>	管理するサービスのタイプを指定します。
<b>snmp-server community</b>	コミュニティ アクセス スtring を設定して、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) にアクセスできるようにします。
<b>snmp-server contact</b>	システムで SNMP 接続のシステム管理情報ベース (MIB) 値を設定します。
<b>snmp-server host</b>	SNMP トラップをリモート システムに送信します。
<b>snmp-server location</b>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
<b>username</b>	システムにユーザを追加し、パスワードと権限レベルを指定します。

## CLI 監査

Cisco ISE コンフィギュレーション コマンドを実行するには、管理者アクセス権が必要です。管理者がコンフィギュレーション モードにログインし、Cisco ISE サーバのコンフィギュレーションを変更するコマンドを実行すると、それらの変更に関連する情報が、Cisco ISE 操作ログに記録されます。

表 1-6 操作ログを生成するコンフィギュレーション モード コマンド

コマンド	説明
<b>clock</b>	時間帯を設定します。
<b>hostname</b>	システムのホスト名を設定します。
<b>interface</b>	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイスコンフィギュレーション モードに入ります。
<b>ip address</b>	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<b>ip name-server</b>	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。

表 1-6 操作ログを生成するコンフィギュレーション モード コマンド (続き)

コマンド	説明
<b>ip default -gateway</b>	IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定します。
<b>kron</b>	コマンド スケジューラを設定します。
<b>logging</b>	システム ログिंगを設定します。
<b>ntp</b>	NTP 設定を指定します。
<b>ntp server</b>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアの時計を同期化します。
<b>repository</b>	リポジトリを設定します
<b>service sshd</b>	管理するサービスを指定します。
<b>snmp-server</b>	SNMP サーバを設定します。
<b>username</b>	ユーザの作成

コンフィギュレーション モード コマンドに加え、EXEC の一部のコマンドは、操作ログを生成します。

表 1-7 操作ログを生成する EXEC モード コマンド

コマンド	説明
<b>application</b>	アプリケーションのインストールおよび管理。
<b>backup</b>	バックアップ (Cisco ISE と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<b>backup-logs</b>	システムおよびアプリケーションのログをバックアップします。
<b>copy</b>	コピー コマンド。
<b>delete</b>	ファイルを削除します。
<b>forceout</b>	特定の Cisco ISE サーバ システム ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
<b>halt</b>	システムをシャットダウンします。
<b>mkdir</b>	新しいディレクトリを作成します。
<b>patch</b>	システムまたはアプリケーションのパッチをインストールします。
<b>reload</b>	システムをリブートします。
<b>restore</b>	システムを復元します。

